

SEMI G75.3-0698 (Reapproved 0706)

リードフレームテープ上の保護フィルムの剥離強度の測定のための試験方法

NOTICE: This translation is a REFERENCE COPY ONLY. If differences should exist between the English version and a translation in any other language, the English version is the official and authoritative version.

免責事項： この SEMI スタンドアードは、投票により作成された英語版が正式なものであり、日本語版は日本の利用者各位の便宜のために作成したものです。万が一英語と日本語とに差異がある場合には英語版記載内容が優先されます。

SEMI スタンドアード日本語翻訳版をご利用にあたっての注釈を本文の末尾に記載しております（「すべきである」「しなければならない」について等）。

本スタンドアードは、Assembly & Packaging Global Technical Committee で技術的に承認されている。現版は 2006 年 5 月 16 日、global Audits and Reviews Subcommittee にて発行が承認された。2006 年 6 月に www.semi.org で。初版は 1998 年 6 月発行。

1 方法の要約

1.1 接着剤からフィルムを剥離し（図 1 参照），その剥離力は校正されたロードセルを有する引張試験器で測定する。

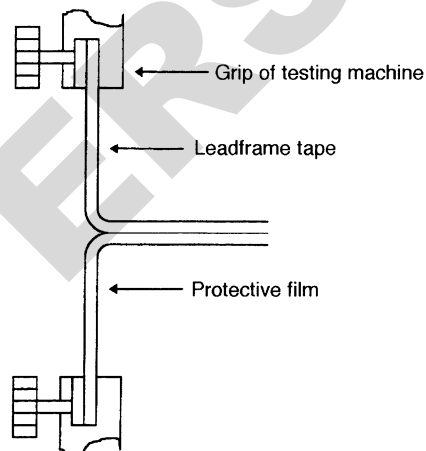


図 1
T 形剥離試験のためのテストピースの取付け

2 装置

2.1 適切なロードセル，クランピングチャック，およびチャートレコーダを持つ引張試験器。

2.1.1 引張試験器は，クランプの移動速度は一定であり，移動距離は 1 mm の精度で読み取ることができること。同時に，サンプルにかかる加重が記録されなければならない。それは，チャートレコーダ上で $\pm 1\%$ の精度で加重が測定され，記録する。

3 テスト条件

3.1 剥離強度テストは、次の周囲条件で実施されなければならない：

3.1.1 温度 — $23 \pm 5^{\circ}\text{C}$

3.1.2 相対湿度 — $50 \pm 5\% \text{ RH}$

4 サンプルング

4.1 サンプルングは、1 ロットあたり 1 サンプルである。ユーザが要求するならば、メーカーは、ロットの定義を報告しなければならない。

4.2 テストされるテープの幅は、 $15 \pm 0.2 \text{ mm}$ とする。

5 装置の校正およびセットアップ

5.1 セットアップおよび校正に関しては、引張試験器のメーカーの装置マニュアル参照。

5.2 図 1 に示された T 形剥離試験のために、サンプルが取り付けられ剥離する。

5.3 テストピースの両端は、§ 2.1 に規定された試験機のグリップに取り付ける。

5.4 引張り速度は、 300 mm/分 に設定される。

5.5 引張り距離は、剥離の始点から 125 mm 以上とする。

5.6 剥離強度は、グラムで記録される。

6 測定

6.1 図 2 に示されているように、剥離長さを横軸とし、剥離強度を縦軸とした場合、剥離強度のバラツキを平均化した直線を横軸に平行にひき、その値を剥離強度とする。測定始めの 25 mm はデータを除去する。

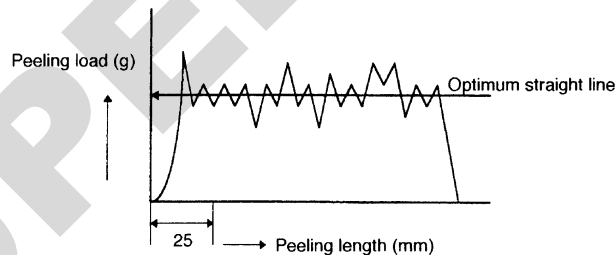


図 2
最適直線方法によって剥離負荷を得る

7 関連文書

7.1 JIS 仕様¹

JIS K 6854 — Testing Methods for Peel Strength of Adhesives

¹ Japanese Standards Association, Mita MT Bldg., 3-13-2 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-0073, Japan; Telephone: +81.3.3583.8005, Fax: +81.3.3586.2014, <http://www.jsa.or.jp>